# NCHソフトウェア

# Express Scribe
# テープ起こしソフト

このマニュアルは以下の製品用に作成されています：

Express Scribe テープ起こしソフト バージョン13.xx

©NCHソフトウェア

# テクニカル　サポート

Express Scribe
テープ起こしソフト操作中に問題が起こった場合は、サポートへ連絡する前に、該当するトピックをお読みください。このユーザーガイドに問題が見つからない場合は、

www.nch.com.au/scribe/jp/support.html にて、最新のExpress Scribe
テープ起こしソフト
オンラインテクニカルサポートをご覧ください。それでも問題が解決されない場合は、そのページに記載されているテクニカルサポートまで連絡してください。

# ソフトウェアの提案

Express Scribe
テープ起こしソフトの改善策または、必要な関連するソフトウェアへの提案がございましたら、www.nch.com.au. の提案ページに書き込んでください。当社のソフトウェアプロジェクトの多くは、ユーザーからの提案によって行われています。お客様の提案が採用された場合、アップグレード版を無料で提供いたします。

# Express Scribe
# テープ起こしソフト

# 目次


Express Scribeについて ..... 2
ライセンスとお試し期間 ..... 3
よく使う機能 ..... 4
キーボードを使った機能 ..... 7
CDからファイルを読み込む ..... 9
フローティングウィンドウ ..... 10
ミニ画面 ..... 11
ワープロソフトの使い方 ..... 12
添付 ..... 13
文字/行カウンター ..... 14
しおり ..... 15
タグ ..... 16
ディクテーション情報 ..... 17
ディクテーションを転送 ..... 18
携帯型レコーダから転送（ドック） ..... 20
音声の特殊処理 ..... 23
電子メールの詳細設定 ..... 24
過去のディクテーションを復元 ..... 25
ディクテーションを検索 ..... 26
ソフトウェア開発キット ..... 27
NCHソフトウェア総合パッケージ ..... 28
ソフトウェアライセンス規約 ..... 29
Windows XPおよびVistaでのGoogle認証プロセス ..... 31

## オプション

オプション ~ 再生 ..... 32

オプション ~ システムワイドのホットキー ..... 34
オプション ~ 受信 ..... 35
オプション ~ 受信 ~ 受信元のプロパティ ..... 36
オプション ~ ファイルタイプ ..... 39
オプション ~ 音声認識 ..... 40
オプション ~ ディスク使用状況 ..... 42
オプション ~ 表示 ..... 43
オプション ~ その他 ..... 44
オプション ~ コントロール ..... 45

## コントローラ

コントローラ ~ 概要 ..... 46

コントローラ ~ 互換性のあるコントローラ ..... 47

# Express Scribeについて

Express Scribeはテープ起こし作業用に録音音声のコントロールを行う、プロ仕様のテープ起こしソフトです。タイピストのコンピュータにインストールし、フットペダルやキーボードのホットキーを使って作業を行います。

Express Scribeは様々な形式の録音ファイルや動画ファイルの再生が可能です。また、ドック機能を使って携帯型レコーダから録音音声を転送することもできます。

ディクテーションの録音には、以下の当社ソフトをお使いいただくと便利です：

**Express Dictate:ディクテーションソフト**
http://www.nch.com.au/express/jp/index.html
**MSRS:会議・裁判用録音ソフト**
http://www.nch.com.au/msrs/jp/index.html
**Web Dictate:Webディクテーションソフト**
http://www.nch.com.au/webdictate/index.html
**Dial Dictate:電話ディクテーションソフト**
http://www.nch.com.au/dialdictate/jp/index.html
**Pocket Dictate:iPhone、Pocket PC、Palm OS用のボイスレコーダ**
http://www.nch.com.au/pocket/jp/index.html

Express Scribeはフットペダルやホットキーを使ったコントロールや、再生速度の変換、完成原稿の自動送信、音声認識ツールを使った下書き作成など様々な機能を搭載しています。

Express Scribeはバックグラウンドで実行しながら、Microsoft WordやCorel WordPerfect、Lotus Word Proなど様々なWindowsのワープロソフトを使ってタイプ入力できるほか、Express Scribeのメモ欄を使ってタイプ入力することも可能です。

システム要件

- Windows XP / 2003 / Vista / 2008 / 7 / 8 / 10
- サウンドカード
- スピーカー（またはヘッドセット）
- フットペダル（任意）
- インターネット接続（インターネット経由で録音ファイルを受信する場合)
- コンピュータ ネットワーク（ネットワーク経由で録音ファイルを受信する場合）

# ライセンスとお試し期間

**無料版とプロ版の機能比較**

| 機能 | Express Scribe無料版 | Express Scribeプロ版 |
|---|---|---|
| ファイル形式 | AIFF、DCT、MP3、WAV、WMAのみ | 対応している全てのファイル形式 |
| フットペダル | AltoEdge USB フットペダルのみ | 対応している全てのフットペダル |
| 動画再生機能 | なし | あり |
| ライセンス先 | ご家庭でのご使用のみ | • ご家庭でのご使用<br>• 中小企業（従業員10名以下）<br>• 法人/行政機関 |
| テクニカルサポート | なし | あり |

**お試し期間**

Express Scribeをインストール後一定期間は無料でお試し版をお使いいただけます。
お試し期間中は有料版のExpressScribeと全く同じ機能をお使いいただけます。
お試し期間が終了後は製品購入ページから有料版ライセンスをご購入いただくと継続して有料機能をお使いいただけます。
有料版ライセンスを使った登録方法については
ソフトウェアのご購入とご登録に関するサポートページをご覧ください。

# よく使う機能

**ファイルの管理**

**ファイルを読み込む**

Express
Scribeへ音声または動画ファイルを読み込む方法は、１）フォルダを同期して新しいファイルを読み込む、２）手動でファイルを選択して読み込む、３）録音デバイスからファイルを転送するの3通りがあります。

同期：
Express
Scribeで同期を行うよう設定するにはメインのツールバーの「同期」アイコンをクリックします。オプション画面の受信タブが開きます（詳しくはオプション ˜ 受信

読み込む：
Express
Scribeに手動でファイルを読み込む場合は、Ctrl+Lを押すか、メインのツールバーから「読み込み」アイコンをクリックします。読み込みを行うファイルの検索は、ファイル欄またはファイル欄の右にあるフォルダアイコンを使って行います。複数のファイルを一度に読み込む場合は、Shiftキーを押しながらファイルを選択します。

CD-ROMからファイルを読み込む方法については、CDからファイルを読み込むのページをご覧ください。

ディクテーションファイルを読み込んで削除(Ctrl+Shift+L)：
ファイルの読み込みを行い、読み込み後にオリジナルのファイルを削除します。共有フォルダからファイルの読み込みを行う場合などにこの機能を使うと、複数のタイピストが同じファイルを読み込むことを防ぐことができます。

ファイルの自動転送：
携帯型レコーダから録音ファイルを読み込む場合は、メインツールバーの「ドック」アイコンをクリックします。詳しくは携帯型レコーダから転送（ドック）のページをご覧ください。

**ディクテーションの完了**

タイピング完了後は、ファイルを電子メールで送信するか、「完了」ボタンを押して作業を完了します。いずれの場合もファイルは一覧から削除されます。
選択したファイルを電子メールで送信するには、Ctrl+Dを押すか、送信ツールバーボタンをクリックしてください。ワープロ（例： Mac用 Microsoft Wordなど）を使用して文章をタイプした場合、電子メールにファイルを添付することができます（参照をクリック）。
ファイルを電子メールで送信せず、完了扱いにする場合は、Ctrl+Nを押すか、ツールバーの「完了」ボタンをクリックします。

**過去のディクテーションを復元**

完了済みファイルに修正を行う際など、既に完了扱いになっているファイルを復元する必要がある場合は、「過去のディクテーションを復元」画面を使います。小さいツールバーの矢印アイコンをクリックするか、Ctrl+Rを押すと、この画面が表示されます。この画面には、電子メールで送信済みのファイルおよび「完了」ボタンを押して完了扱いにしたファイルが表示されます（ファイルは1か月後に自動的に削除されます）。復元が可能なファイルは、電子メールで送信したファイルまたは「完了」ボタンを押して完了扱いにしたファイルのみです。削除したファイルは復元できませんのでご注意ください。

**ファイルを削除**

ファイルを削除するには、削除するファイルを一覧で選択しCtrl+Deleteを押すか、小さいツールバーの削除アイコン開いているツールバーの削除アイコン（バツ印）をクリックします。削除を行う旨を確認するメッセージが表示されるので「削除」ボタンを押すと削除が完了します。削除したファイルは**復元できません**のでご注意ください。将来的に復元する必要性がある場合は、「完了」ボタンをお使いください。

**DCT形式で保存**

作業中の原稿（およびその他の文書ファイル）をDCT形式のファイルで保存することで、他のタイピストのプログラムに読み込むことができるようになります。途中まで作業を行ったファイルを、他のタイピストに引き継ぐ際などにお使いいただけます。このオプションを使用する前にまず、作業中の文書ファイルを保存します。小さいツールバーのフロッピーディスクアイコンをクリックするか、ファイルメニューから「DCT形式で保存」を選択することで保存作業を行うことができます。

**転送...**

録音ファイル（および添付ファイル）を電子メールやインターネット、ネットワークを経由して転送する場合は、Ctrl+Shift+Fを押すか、小さいツールバーの転送アイコン（カセットテープの下に緑色の矢印が描かれているアイコン）をクリックします。詳しくはファイルの転送のページご覧ください。

**音声および動画ファイルの制御**

再生 (F9)

選択したファイルを現在設定されている速度で再生するには、F9を押すか、Express Scribe画面下部にある再生ボタン（右向き三角形のボタン）を押します。

再生コントロールの右側（メイン画面の右下部）にある速度変更用のスライダを左右に動かし、音声の再生速度を調節します。また、スロー再生はキーボードのF11、高速再生はF3をそれぞれ押すことで行うこともできるほか、F10を押して再生速度を標準速度に戻すこともできます。スロー再生および高速再生の速度はオプション ~ 再生

停止(F4)

再生を停止するには、F4ボタンを押すか、Express Scribe画面下部の停止ボタン（正方形が描かれたボタン）を押します。

録音ファイル内の移動（F7、F8、Ctrl+Home、Ctrl+EndおよびCtrl+J）

早戻しまたは早送りをするには、 また、Express Scribe画面下のコントロール欄にある、早戻しまたは早送りボタンを長押しすることでも行うことができます。

ファイルの先頭に移動する場合はCtrlキーを押しながらHomeキーを押します。同様に、末尾に移動する場合はCtrlキーとEndキーを押します。

Express
Scribe画面下部のコントロール欄（再生や停止などのボタンがある欄）のすぐ上にあるスクロールバーをドラッグさせてファイル内を移動することも可能です。
録音ファイル内の特定の位置に移動するにはCtrl+Jをキーボード上で押します。ダイアログが表示されるので、移動先の時間を指定してください。
フットペダルやシステムワイドのホットキーを使ってExpress
Scribeをコントロールすることも可能です。詳しくはコントローラ ~ 概要のページおよびシステムワイドのホットキーについてをご覧ください。

**タイピング**

Express Scribeはバックグラウンドで実行しながら、Microsoft WordやCorel WordPerfect、Lotus Word
ProなどのWindowsワープロソフトを使ってタイプ入力を行うことができます。また、短い文章の場合、Express
Scribeのメモ欄にタイプ入力を行い、他の文書ファイルにコピー貼り付けすることもできます。

ワープロソフトを使う場合は、システムワイドのホットキーを使うことで、バックグラウンドで実行中のExpress
Scribeをコントロールすることができます。また、フットペダルを使ったコントロールも可能です。詳しくはシステムワイドのホットキーについてまたは
コントローラ ~ 概要をご覧ください。
メモ欄を使う必要が無い場合は、ファイルメニューの「表示」をクリックし、「メモ欄を表示」からチェックマークを外すと、メイン画面のメモ欄が非表示になります。
こちらもご覧ください：
ショートカットとホットキーの一覧
オプション ~ システムワイドのホットキー

# キーボードを使った機能

**キーボードのショートカット**

| | |
|---|---|
| F1 | マニュアルを表示 |
| F2 | ファイル名を変更 |
| F3 | 高速で再生 |
| F4 | 停止 |
| F7 | 早戻し |
| F8 | 早送り |
| F9 | 再生 |
| F10 | 実際の速度で再生 |
| F11 | スロー再生 |
| F12 | 再生 (一時停止あり) |
| Ctrl+Home | ファイルの先頭へ移動 |
| Ctrl+End | ファイルの末尾へ移動 |
| Ctrl+Delete | ファイルを削除 |
| Ctrl+K | 全てコピー（メモ欄） |
| Ctrl+B | しおりを設定 |
| Ctrl+Shift+B | しおり一覧を開く |
| Ctrl+左矢印 | 前のしおり |
| Ctrl+右矢印 | 次のしおり |
| Ctrl+C | コピー（メモ欄） |
| Ctrl+Y | ファイルを同期 |
| Ctrl+D | ファイルを送信 |
| Ctrl+H | ファイルを添付 |
| Ctrl+J | 特定の時間へ移動 |
| Ctrl+L | ファイルを読み込む |
| Ctrl+Shift+L | ファイルを読み込んで削除 |
| F1 | マニュアルを表示 |
| Ctrl+M | ミニ画面を表示 |
| Ctrl+N | 完了 |
| Ctrl+R | 過去のディクテーションを復元 |
| Ctrl+Shift+T | 音声の時間を挿入 |
| Ctrl+U | デフォルトの文書ファイルを開く |
| Ctrl+V | 貼り付け（メモ欄） |
| Ctrl+X | メモ欄から切り取る |
| Alt+F4 | Express Scribeを終了 |
| Ctrl+Shift+C | 音声CDのトラックを読み込む |
| Ctrl+I | ディクテーション情報 |
| Ctrl+Shift+F | ディクテーションを転送 |
| Ctrl+T | クリップボードに時間をコピー |
| Ctrl+F | 検索 |
| Ctrl+G | 再検索 |
| Ctrl+A | 全てを選択 |

「過去のディクテーションを復元」ダイアログ
Ctrl+P　再生
Ctrl+D　削除
Enterキー　復元
Escキー　閉じる
口述プレビュー再生
スペースバー再生
スペースバー一時停止
ホーム　スタートへ移動
左矢印　早戻し
右矢印　転送
Endキー　末尾に移動

**デフォルトのシステムワイドホットキー**
F3　高速で再生
F4　停止
F5　Express Scribeを開く
F6　Express Scribeを最小化
F7　早戻し
F8　早送り
F9　再生
F10　実際の速度で再生
F11　スロー再生

こちらもご覧ください：
オプション ~ システムワイドのホットキー

# CDからファイルを読み込む

ファイルメニューから「音声CDのトラックを読み込む」をクリックすると、Express

Scribeが自動的にCD-ROMドライブに挿入されている音声CDを検出し、選択したドライブ内のCDに保存されている全てのトラック名と録音の長さを表示します。CDの取り出しや新しいCDの読み込みを行った際は「更新」ボタンをクリックすると表示内容が更新されます。

必要なトラックを選択し、「読み込む」ボタンをクリックすると、選択したトラックの音声が抽出されExpress Scribeに読み込まれます。

注意：

- Express ScribeがCDのトラックを検出しない場合や、トラック名の表示が正しくない場合は、音声CDのファイルに.cdaの拡張子が付いていることを確認してください。この拡張子がついていない場合、Express Scribeは音声ファイルを正しく読み込むことができません。この場合、ファイルはデータファイルとしてCDに保存されているはずですので

  ファイルエクスプローラを使ってCDからハードドライブにファイルをコピー貼り付けをします。
- 管理者としてログインしていない場合、Windows XPではCDのリッピングを行うことができません。 詳しくは 制限つきユーザーにCDのリッピング/書き込みを許可する をご覧ください。

# フローティングウィンドウ

フローティングウィンドウ機能を使うと、Express Scribeのメイン画面を常に最前面に表示することができます。ワープロソフトなどで作業中も常にExpress Scribeを表示しておきたい場合はこの機能をお使いください。

フローティングウィンドウ機能は、「表示」メニューの「他の画面の上にフロートさせる」にチェックを入れるとオンになり、チェックを外すとオフになります。

# ミニ画面

ミニ画面はExpress Scribeのユーザーインターフェイスを小さくしたものです。ツールバーから、ミニボタンをクリックすると、Express Scribeのメイン画面が、再生コントロールボタンと動画用画面のみを搭載したミニサイズになります（動画用画面は、「表示」メニューから「動画を表示」をクリックし「常にする」または「可能な場合」が選択されている場合のみ表示されます）。ミニ画面は、ワープロソフトなどを使いながらExpress Scribeを全面表示する際などにお使いいただくと便利です。

ミニ画面の使用中も、ホットキーやフットペダルなどのコントローラを使ってExpress Scribeをコントロールすることができます。

ミニ画面に表示を切り替えるには、ツールバーの「ミニ」ボタンまたはCtrl+Mを押すか、表示メニューの「ミニ表示に切り替え」を選択します。

Express Scribeを元のサイズに戻す場合は、再生コントロールの右側にある「ミニ画面の表示/非表示」ボタンをクリックします。標準画面とミニ画面の切り替えはCtrl+Mのショートカットを使って行うことができます。

# ワープロソフトの使い方

Express Scribeのメモ欄はワープロソフトの代わりとして使うことを目的とした機能ではありません。Express Scribeは、Microsoft WordやCorel WordPerfect、Lotus Word Proなど、一般的なワープロソフトの殆どに対応しています。Express Scribeとワープロソフトを同時に使って作業することもできますが、Express Scribeのメモ欄を使って入力した文章を後からワープロソフトにコピー貼り付けする形で作業することも可能です。

**ワープロソフトに直接タイプ入力**

Express Scribe内でファイルを選択後、ワープロソフトを開き、フットペダルやシステムワイドのホットキーを使って音声ファイルを再生しながらタイプ入力を行います。

ワープロファイルの作成や表示、管理を自動化するには、雛形となる文書ファイルを作成し、Express Scribeの文書保存先フォルダに保存します。「特定の文書ファイルを使う」にチェックを入れ（オプション ~ その他）新しいファイルを選択します。こうすることで、この録音に関する文書を作成または開く際は、Ctrl+Uをクリックすると、既存の文書がある場合はこの文書が開きます。既存の文書が無い場合は、Express Scribeが雛形ファイルを開きます。

詳細オプション：録音ファイルのタイプ毎に異なるベース文書を使う場合は、ベース文書のファイル名領域にファイルタイプを半角％記号で囲んで入力します。Express Scribeは初めて文書を作成する際にまずメモ欄に入力されたデータ（DialDictateまたはExpress Dictateを使って口述者が入力したもの）を確認します。Express DictateまたはDialDictateによるデータ入力が行われていなかった場合、データの入力を要求するプロンプトが表示されます。これはつまり、ベース文書が「C:\My Documents\Template%doctype%.doc」と指定されている場合、Express Scribeは「<doctype>...</doctype>」データの検索をまず行い、データが検知されなかった場合にdoctypeを要求するプロンプトを表示するということです。例えばDialDictateのユーザーがディクテーションのタイプを21と入力していた場合、これは「<doctype>21</doctype>」としてExpress Scribeに保存され、Express Scribeはこれを受けて「"Template21.doc"」の文書を使います。

**メモ欄を使って入力を行う場合**

Express Scribeのメモ欄を使ってテープ起こし文章の入力を行うこともできます。メモ欄に入力した文章は、Ctrl+Kキーを使ってメモ欄内の文章を全てコピーし、文書ファイルに貼り付けて保存します。

**文書ファイルを送信**

文書ファイルを電子メールに添付して送信する場合は、送信ボタンをクリックして「添付一覧を開く」をクリックし、必要なファイルを選択します。

こちらもご覧ください：

コントローラ ~ 概要

# 添付

**添付ファイルの追加、削除、保存**

Express Scribeは、ディクテーションに様々な添付ファイルを追加することができます。追加した添付ファイルは録音ファイルの転送または送信時に一緒に送信されます。

添付ファイルを追加するには、送信するディクテーションを右クリックし、「ファイルを添付」を選択した後、「開く」をクリックします。

Express Scribeはこのファイルをディクテーションに添付して送信します。

こちらもご覧ください：

ワープロソフトの使い方
ファイルの転送

# 文字/行カウンター

テキストの文字数や行数を数える場合は、**ツール ->文字/行カウンター**をクリックします。
ディクテーションを選択し、カウンターを表示すると、メモ欄に入力されている文章の文字数や行数を数えて表示します（単語数は英語など「単語と単語の間にスペースを入れる」言語でのみ機能します）。
ワープロソフトなどから文章のコピー貼り付けを行う場合は、文章の貼り付け後、**再計算**ボタンをクリックします。

# しおり

文章内に「しおり」を設定し、後から簡単に必要な個所を検索することができます。聴き取りにくかった箇所や、別のタイピストへの引き継ぎ箇所などに設定すると便利な機能です。

しおりはCtrl+Bを使って設定し、Ctrl+左矢印やCtrl+右矢印を使って各しおり間を移動します。「しおり」メニューの「しおり一覧を開く」のプルダウンまたはCtrl+Shift+Bを使用して、現在のディクテーションの全しおり一覧を開くことができます。一覧画面で「しおりの設定時に詳細を訪ねるプロンプトを表示」にチェックを入れると、新しくしおりを設定する度ににコメントの入力を要求するプロンプトが表示されるようになり、入力したコメントがしおり一覧に表示されます。コメントは、例えば「ここまで完了」というコメント挿入し別のタイピストに引き継いだり、耳で聞いただけでは判断しにくい箇所に「橋と箸のどちらですか？」と言ったコメントを入れて確認を取ったりと言った使い方ができます。

一覧画面の「削除」ボタンを使うと、選択したしおりを削除することができます。
備考：現在のバージョンでは、DCTファイルフォーマットによるしおりの保存には対応していません。
こちらもご覧ください：
ワープロソフトの使い方
ファイルの転送

# タグ

2つまでのタグを含むディクテーションの受信が可能です。タグはXMLデータとしてディクテーションのメモ欄に保存されます。
各タグはタグ名と値で構成され（<タグ名>値</タグ名>)、
通常、録音ファイルの作成時にデータが設定されます。

タグは任意で、タグ名・値とも自由に設定することが可能なほか、
使い方も自由です。 使い方の例は以下の通りです：

- 一覧から必要なディクテーションを素早く検索できるようにするため、クライアント名やケース番号を付ける。 例： <caseno>12345</caseno>。
- 録音ファイルの言語や種類を指定し、Express Delegateを使って特定のタイピストにファイルを送信（Express Delegateで送信ルールを設定する必要があります）。 例：<lang>French</lang>。

メイン画面のディクテーション一覧にカラムを追加することでタグを表示することができます。 詳しくはオプション ~ 表示 をご覧ください。

# ディクテーション情報

一覧でディクテーションを選択し（複数ファイルを選択可）、「ファイル」メニューから「ディクテーション情報」をクリックすると、以下の情報が表示されます：

**選択したディクテーション数**

ディクテーション情報を表示しているディクテーションの数です。

**合計時間**

選択したディクテーションの総合計時間です。

**相殺時間：**

受信したディクテーションが、長い録音ファイルの一部であった場合、相殺時間を設定することで再生時間を元の録音音声にマッチさせることができます。
相殺は「経過時間」と「録音時間」の両方の時間モードに適用されます。
時間モードについての詳細はオプション ˜ 表示をご覧ください。
メモ：相殺の変更は複数のファイルに一度に行うことはできません。
メモ：相殺は1つのディクテーションにつき1つがローカルにのみ保存され、転送ファイルやエクスポートされたファイルには保存されません。

**送信者**

ディクテーション送信者の名前や連絡先などの情報です。
複数のディクテーションを選択している場合、選択した全てのディクテーションで共通する情報のみが表示されます。
ディクテーション毎に異なる値が入力されている領域には[各種]と表示されます。

注意：

- 送信者の詳細は、ディクテーションの送信前に送信者が詳細を入力している場合にのみ表示されます。
- 送信者の詳細は、DCTファイルとして送信されたディクテーションにのみ表示されます。

# ディクテーションを転送

ディクテーションの転送機能を使うと、電子メールやコンピュータネットワーク（フォルダを使用）、インターネット（FTPサーバーを使用）を使ってディクテーションファイルを転送することができます。一部のみテープ起こしが完了しているディクテーションファイルを別のタイピストに引き継ぐ際などに便利な機能です。

ディクテーションをするにはまず、転送するファイルを選択しCtrl+Shift+Fを押します。次に送信方法と送信先を入力します。ご不明な点はディクテーションシステムを設定した担当者にご確認ください。

ディクテーションに添付したファイルはディクテーションと共に送信されます。ファイルを添付するには、Ctrl+Hを押して添付ファイルを検索し指定してください。

**転送方法**

**電子メールに添付して送信**

ディクテーションを電子メールの添付ファイルとして送信します。
受信者の電子メールアドレスを入力してください。
こちらもご覧ください： 電子メール設定

**お使いのコンピュータまたはLAN（ローカルエリアネットワーク）のフォルダに転送**

転送相手が社内などのネットワーク内にいる場合、LANを使って素早くファイルを転送することができます。この場合、ネットワーク上に共有フォルダが設定されている必要がありますので、必要に応じてシステム管理者にフォルダの作成を依頼してください。

ドライブ名を頂点とした共有フォルダの絶対パスを「フォルダ：」に入力します（例：H:Typist）。受信者のプログラム（Express Scribe）からもこの共有フォルダにアクセスできるよう設定する必要があります。

**サーバー(FTP)へアップロード**

FTPを使ってディクテーションをインターネットサーバーに直接送信することができます。受信者がFTPにアクセスな場合にのみ使えるオプションですが、電子メール送信より早い作業が可能です。

「サーバー（FTP）へアップロード」を選択し、サーバー名やユーザー名、パスワード、FTPサーバーのディレクトリを入力します。

お勧めするFTP ホストサービス

**暗号化**

「ディクテーションを再暗号化」にチェックを入れると、転送前にディクテーションの暗号化を行うことができます。
受信時にディクテーションが暗号化されていた場合にのみ、このオプションを使用することができます。

**ファイル名フォーマット**

転送するディクテーションのファイル名は、固定の文字列と変数を組み合わせて指定することができます。
以下の変数をお使いいただけます：

- %dict-name%：ディクテーション名
- %dict-num%：ディクテーション番号（送信者から受信したディクテーションでない場合は0となります）
-

%sender-num%：送信者番号（登録されていない送信者からのディクテーションの場合は0となります）

- %priority%：ディクテーションの優先順位（000～100)
- %now-year%：現在の日付 - 西暦（4ケタで表記）
- %now-month%：現在の日付 - 月（01～12)
- %now-day%：現在の日付 - 日にち（01～31）
- %now-hour%：現在の時間 - 時（00～23）
- %now-min%：現在の時間 - 分（00～59）
- %now-sec%：現在の時間 - 秒（00～59）
- %%：パーセント記号 (%)

備考：ファイル拡張子(.dct)は自動的に付加されます。

例：
2008年1月1日の午後2時に転送された「サンプル」という名前のディクテーションの場合、変数を含むファイル名を「
転送%now-year%年%now-month%月%now-day%日%now-hour%時%now-min%分、ファイル名：%dict-name%」とすることで
ファイル名は「転送2008年01月01日14時00分、ファイル名：サンプル」と表示されます。

こちらもご覧ください：
受信ファイル オプション

# 携帯型レコーダから転送（ドック）

携帯型レコーダから録音ファイルを転送する方法には2通りあります。一般的なWAVフォーマットのファイルを使い、専用の接続ケーブルとソフトウェアがあるデジタル式携帯型レコーダからの転送には「音声ファイル転送」を選択します。アナログのカセットレコーダや、独自のファイルフォーマットを使うデジタルレコーダからの転送には「オーディオケーブル接続」を選択します。

備考：PDAを使ったディクテーションの場合は、Pocket Dictate（www.nch.com.au/pocket/jpから無料ダウンロード）を使って直接タイピストに電子メールで録音ファイルを送信するのが最も簡単なファイルの送受信方法です。こうすることで、ドック機能が不要になります（タイピストは受信した添付ファイルを開くだけです）。

お勧めする携帯型レコーダについての詳細は以下のページをご覧ください：

**ドック：音声ファイル転送**

オープンフォーマットのファイルを使うタイプのデジタルレコーダで録音したディクテーションの転送にはこのオプションを使います。

所定のハードドライブに録音ファイルを自動転送するためのソフトウェアが付いた携帯型レコーダにのみお使いいただけるオプションです。

携帯型レコーダのソフトウェアを設定後、Express Scribeのファイルメニューから「携帯機器から転送（ドック）」を選択して「音声ファイル転送」をクリックするとドック（音声ファイル転送）ダイアログが表示されます。このダイアログを使って、携帯型レコーダのソフトウェアがWavファイルのダウンロード用に設定したフォルダを指定します。このダイアログにはまた、以下の3つの転送オプションがあります：

- サブフォルダからファイルを読み込む：指定したメインフォルダのサブフォルダ内のファイルを読み込む場合は、このオプションを選択します。
- 読み込み後にファイルを削除：読み込みを行ったファイルををフォルダから削除する場合は、このオプションを選択します。
- 新しいファイルのみ読み込む
  ：既に読み込まれているファイルより新しい更新日時のファイルのみを読み込みます。古いファイルを削除せずに新規ファイルが次々追加される場合などにこの機能を使うと、同じファイルが繰り返しインポートされるのを防ぐことができます。

ドック機能の基本的な使い方

各種レコーダ用ソフトウェアのインストール方法と、ドック機能の設定方法は以下の通りです（インストール方法等はメーカーや製品ごとに異なりますので、詳しくは製品の説明書をご覧ください）：

フィリップス社製のレコーダ

ExpressScribeと非常に相性が良いレコーダです。ExpressScirbeがインストールされているコンピュータに、レコーダ付属のソフトウェアをインストールする必要があります。インストールが完了するとWavファイルを読み込めるようになります。

サンヨー製のレコーダ

Express
Scribeを実行中のコンピュータに、レコーダに同梱されているCDを使って「PCMemoScriber」をインストールします。次に、Express
Scribeのファイルメニューから「携帯機器から転送(ドック)」を選択して「音声ファイル転送」をクリックし、参照ボタンを使って「C:\Program Files\PCMemoScriber」を指定します。ドック機能を使ってPCMemoScriberから録音を読み込む際は、レコーダ用ソフトの「Transfer from Voice Recorder」ボタンを押して録音ファイルをコンピュータに読み込み、読み込み完了後Express Scribeの「ドック」ボタンを押してExpress
Scribeへの読み込み作業を行います。

オリンパス製のレコーダ（dssファイル）
Dssファイルに関しての詳細はDssファイル形式のテクニカルサポートのページから「DSSファイルが正しく読み込まれません」の項目をご覧ください。
ソニー製のレコーダ（メモリースティック）
ソニー製のレコーダでドック機能を使う場合は、ソニーのVoice
Editorを使ってWav形式でファイルをエクスポートするという手順が必要です。やり方を覚えるとあっという間に完了する作業ですのでご安心ください。
まずソニーのVoice
Editorプログラムを開き、通常の手順でレコーダー（またはメモリースティック）からデフォルトのフォルダへファイルの読み込みを行います。Voice
Editorへのフォルダ（またはファイル）の読み込み完了後、ファイルメニューから「VOICEフォルダに保存」を選択し、Express
Scribeへの読み込み用に指定したフォルダを保存先に指定します。ファイルのタイプをWAV（16ビット）に指定し、保存ボタンをクリックします。

上記の作業が完了後、Express
Scribeの「ドック」ボタンから「音声ファイル転送」を選択し、上記の手順で保存を行ったフォルダを送り側として指定することでファイルの読み込みを行うことができます。

**ドック：オーディオケーブル接続**

アナログ式のカセットレコーダーや、オープンフォーマット以外のファイルを使うタイプの携帯型デジタルレコーダをお使いの場合は、この方法でファイルの読み込みを行います。

手順としては単純に録音音声をコンピュータ上で再生してコンピュータに取り込むするというものですが、全二重サウンドカードを搭載し、しきい値の検出レベルが正確に設定されている場合は、タイプ入力中にバックグラウンドで自動的に取り込み作業を行うことができるため非常に便利です。

携帯型のディクタフォンやノートテイカーからExpress
Scribeへ録音の転送を行う場合、携帯機器のイヤホン用ソケットと、サウンドカードの入力ソケットをリード線で繋ぎます。接続に使用するリード線はお近くの電気店等でご購入ください。

接続設定
音声録音デバイス
コンピュータに複数のサウンドカードが搭載されている場合、携帯型レコーダに接続されているサウンドカードをプルダウンリストから選択します。

音声入力チャンネル
転送用の接続の場合、通常「ライン」または「ライン入力」を使います。

録音音量レベル
ディクテーション中の音量は、音量メーターがわずかに赤く表示されるレベルに設定します。
音声起動機能を使う
起動を行う音声レベル
音声の転送作業は、一定の音量を超えると開始し、下回ると停止するよう設定されています。デフォルトではしきい値が-15dBに設定されていますが、必要に応じて設定を変更してください。転送の開始が早すぎたり、テープの再生が終わっても自動停止しない場合などは、しきい値の数字を上げ、転送の開始が遅すぎたり、再生が終わる前に転送が終了してしまったりする場合は数字を下げてください。起動の音量を調整する前に、録音自体の音量の調整を行ってください。

手動で読み込みを行う場合は、「音声起動機能を使い自動的に開始および停止を行う」からチェックを外します。
高速で転送
高速での転送が可能なレコーダの場合、「高速で転送」にチェックを入れて転送速度をレコーダの再生速度に合わせて設定することで、長い録音ファイルなどの転送にかかる時間を短縮することができます。
レコーダに高速での転送機能が付いていない場合や、正しい速度設定が行われなかった場合は、録音音声が正しく転送されませんのでご注意ください。
また、標準速度で転送した場合の方が、高速で転送した場合より音質が良くなる傾向にありますので、この点についてもご注意ください。

再スタート
転送が正しく開始されなかった場合は、再スタートボタンを押してテープの最初から転送を開始します。
完了
転送が完了したら、完了ボタンをクリックします。
完了ボタンを押さなかった場合でも、ドック画面は転送終了の15秒後に自動的に閉じますので、録音音量と起動を行う音声レベルが正しく設定されていれば転送開始後は特に何もする必要はありません。
複製処理
ドック機能を使って音声ファイルの読み込み中に、他のファイルを再生しながらExpress
Scribeでテープ起こし作業をすることができます（サウンドカードによっては稀にこうした作業ができないものもあります）。この場合、まず上記の手順でドック機能を使ってファイルの読み込みを開始し、完了ボタンを押さずに、Express
Scribeのメイン画面をクリックしてメイン画面に焦点を当てます。読み込み中の音声が聞こえてくる場合は、タスクバーのスピーカーアイコンをクリックしてライン入力のチャンネルを閉じます。これで録音中にExpress
Scribeで別の音声を再生しながら作業を行うことが可能になります。お使いのシステムの音量コントロールを確認し、ライン入力が音声の再生用に使われていないことを確認する必要がある場合がありますのでご注意ください。

# 音声の特殊処理

音声に以下のような特殊処理を行う場合は、Express Scribeのファイルメニューから「音声の特殊処理」を選択します。

**バックグラウンドのノイズ削減：**
この音声処理を選択すると、読み込みを行う最低音量のしきい値が設定され、この値を下回る音声が削除されます。録音ファイルに含まれた雑音（背景音など）が原因で音声が聴き取り辛いというような場合に便利な機能です。ただし、雑音が大きすぎる場合は、必要な音声と雑音の区別がつかないため、正しく機能しない場合がありますのでご注意ください。

**音量アップ：**（ラウドネス、音量、増幅、レベルおよびゲイン）
「ラウドネス」、「音量」、「増幅」、「レベル」などは、どれも似たような意味を持つ用語です。音声の音量を上げると、より多くのパワーが更に必要になり、より大きな音になります。受信したディクテーションの音量が小さすぎるため、音量を上げる必要がある場合にこの音声処理を使うと、音声ファイル全体の音量を10%上げることができます。

**ハイパスフィルタ：**
この音声処理を選択すると、周波数が450Hz以上の音声のみが保存されます。ハイパスフィルタを使うことで、不明瞭な音声のディクテーションを聴きやすくすることができます。

**元に戻す**
Express Scribeまたは特定のファイルの読み込み後に行われた音声処理をすべて元に戻します。

**備考：**上記設定のパラメータを変更する場合は、弊社のWavePad音声編集ソフトをお使いください。
Wavepadのダウンロードは無料です。また、お試し期間中は有料版と同じ機能を全てお試しいただくことができます。ダウンロードはこちら：
www.nch.com.au/wavepad/jp

# 電子メールの詳細設定

電子メールの詳細設定のダイアログボックスで、Express Scribeを使った電子メールの送信方法を設定することができます。

電子メールの詳細設定を開くには、「送信」ボタンをクリックし、「電子メールの詳細設定」ボタンをクリックします。

**メール送信タイプ：MAPI またはSMTP**

Express Scribeは、MAPIまたはSMTPの2通りの方法で電子メールを送信することができます。

デフォルトでは、お使いのコンピュータにインストールされているメールソフト（Eudora、Netscape Mail、Lotus Notes、Outlook、Mail, Thunderbird など）を使ったMAPIシステムで送信するよう設定されています。この場合、事前にメールソフトがインストールされており、デフォルトのMAPIサーバーとして設定されている必要があります。MAPIシステムを使うと、普段お使いのメールソフトでメールの送信ができるため便利ですが、Outlookをお使いの場合はユーザー入力を要求するプロンプトが繰り返し表示されるなどの問題が発生する場合があります。MAPIによる送信に問題がある場合は、SMTPをお使いください。

「SMTPを使ってメールサーバーに直接送信」を選択した場合、電子メールはExpress Scribeから直接送信されます。お使いのインターネットプロバイダがメールの送信用に使用しているSMTPメールホストと、返信用の電子メールアドレスを入力してください。SMTPメールホストがわからない場合は、お使いのインターネットプロバイダにお問い合わせください。

電子メールの送信に問題がある場合は、こちらのページをご参照ください。

# 過去のディクテーションを復元

過去のディクテーションの復元ダイアログはCtrlとRキーを押すか、小さなツールバーで「過去のディクテーションを復元」ボタンを押すと表示されます。送信済みまたは完了として既にマークされているディクテーションが表示されます。古いディクテーションは1か月経過すると削除されるよう設定されています。この設定の変更は（オプション ˜ ディスク使用状況で行います）。

**再生**

ディクテーションの内容の確認は再生ボタンを押して行います。

**復元**

選択したディクテーションをメイン画面のディクテーション一覧に移動します。

**削除**

選択したディクテーションを完全に削除します。
削除したディクテーションは復元できませんので、ご注意ください。

**検索**

「過去のディクテーションを復元」一覧に多数のファイルがある場合、ファイル名や日付、送信者、メモからディクテーションの検索を素早く行うことができます。

# ディクテーションを検索

ディクテーションを素早く検索するには、Ctrl+Fを押して「ディクテーションを検索」ダイアログを開きます。 Express Scribeメイン画面のディクテーション一覧に含まれる単語から検索を行うことができます。
まず、検索を行う項目をプルダウンメニューから選択し、検索を行う文字を「検索する文字」の欄に入力します。
大文字と小文字が区別されますので、入力の際はご注意ください。 Ctrl+Gを押すと、同じ条件の次の検索結果が表示されます。

# ソフトウェア開発キット

Express Scribeを他のソフトウェアと統合、または大規模なディクテーションシステムの一部に加えるなどのプログラミングに関する情報は、ソフトウェア開発キットをご覧ください。

# NCHソフトウェア総合パッケージ

この画面から弊社が開発しているその他の便利なソフトを簡単に探すことができます。

音声や動画などカテゴリ別の一覧から必要なソフトをお選びください。必要なソフトが見つかったらボタンをクリックするとお試し版がインストールされ、無料でソフトをお試しいただけます。既にインストール済みのソフトのボタンは「実行」ボタンになっており、このボタンを押すとソフトが起動します。

カテゴリ別一覧の下の欄にはソフトの機能の一覧があります。例えば「動画を録画する」という機能をクリックすると、動画の録画用ソフトがインストールされます。

**検索**

検索エリアに必要なソフトに関するキーワードを入力して「検索」ボタンをクリックすると、キーワードにマッチした弊社サイトの検索結果が表示されます。

**その他のNCHソフトウエア製品を見る**

弊社の全製品カタログが表示され更に多くのソフトをお探しいただけます。

**ニュースレターを購読**

新製品のリリースやソフトのアップデートなどの最新情報をいち早くお届けするニュースレターを購読いただけます。購読の停止はいつでも簡単に行っていただけます。

**最新の特別購入価格を参照する**

各製品の最新の割引価格をご覧いただけます。

# ソフトウェアライセンス規約

弊社はユーザーの皆様のお役に立つソフトウェアの提供を目的と致しております。弊社製品は利用規約に同意いただくことでお使いいただけます。
この利用規約は当社の責任を制限し仲裁合意および裁判管轄合意に準拠します。以下の条項をお読みいただきお客様の権利についてご理解ください。本規約は全て英文を正本としますので予めご了承ください。

1.
このソフトウェアおよびソフトウェアと共に配布される音声およびビジュアル作品の著作権はNCHソフトウェアおよび製品情報画面に記載されている他の著作権者に帰属します。全ての権利は著作権者が保有します。このソフトウェアおよびこのソフトウェアに同梱またはこのソフトウェアによりオンデマンドでインストールされるソフトウェア（ショートカットやスタートメニューフォルダを含む）のインストールは以下の規約に則りライセンスされます。こうした著作権はユーザーが作成した作品には適用されません。

2.
このソフトウェアをインストール、使用、または配布することで、ユーザーはユーザー自身およびユーザーの雇用主または当事者に代わってこの規約に同意します。規約に同意しない場合はソフトウェアの使用、複製、送信、配布およびインストールを行うことができません。返金が必要な場合はご購入後14日以内に商品をご購入いただいた場所にご返品ください。

3.
このソフトウェアおよびソフトウェアに付随するファイル、データ、その他素材は全て「現状のまま」で提供され、法により定められていない限りは、明示または黙示を問わずいかなる保証も行われません。重大な影響を与える件にこのソフトウェアを使用する場合は、使用前に十分なテストを行い、使用に伴うリスクは全てユーザーが負うものとします。

4. NCHソフトウェアはこのソフトウェアの使用により発生したいかなる損害（特別損害、付随的損害、派生的損害を含む）に対しても責任を負わず、当社製品のご購入時にお支払いいただいた金額に対する返金以外への対応は一切いたしかねます。

5.
このソフトウェアの誤使用が人体に危害を加える可能性がある場合、また人命にかかわる場合はこのソフトウェアを使用しないでください。コンピュータを定期的にバックアップしない場合、またはコンピュータにウィルス対策ソフトやファイアウォールがインストールされていない場合、重要なデータが暗号化されずにコンピュータに保存されている場合はこのソフトウェアを使用しないでください。こうした方法での使用によるいかなるクレームに対してもNCHソフトウェアを免責することに同意する必要があります。

6.
何ら手を加えられていない状態のソフトウェアのインストールを複製および配布することはできますが、弊社ソフトウェアの登録コードの配布は、いかなる状況においても弊社の書面による許可なく行うことはできません。許可されていないコードの使用が行われた場合は、コードが使用された全てのロケーションに対して製品の全額をお支払いいただきます。

7.
ソフトウェアによって限られた状況下でのみ自動的に匿名で収集された使用統計データの使用は当社のプライバシー規約に従って行われます。
8. 準拠法と管轄ユーザーがアメリカ合衆国居住者である場合はアメリカ法人のNCH Software,
Inc.が当事者となり、この規約に関して紛争が生じた場合、この利用契約はコロラド州の法律を準拠法とし、同州の裁判所を管轄とします。ユーザーがアメリカ合衆国居住者以外である場合はオーストラリア法人のNCH Software Pty
Ltd.が当事者となり、この規約に関して紛争が生じた場合、オーストラリア首都特別区の法律を準拠法とし、同区の裁判所を管轄とします。上記で定められた裁判所は、当事者間の紛争に関し、いかなる性質の紛争であっても、継続的かつ専属的な管轄権を有します。

9.
アメリカ合衆国居住者のみ：仲裁合意およびクラスアクション（集団訴訟）の権利放棄：ユーザーがアメリカ合衆国に居住する場合、当事者間の全てのクレームおよび紛争は英語版の規約（以下のページよりご覧ください：
https://www.nch.com.au/general/legal.html）を基に仲裁を行うものとします。この規約をお読みいただきご理解ください。お客様の権利について書かれています。この規約ではユーザーおよびNCHソフトウェアのいずれも、個人の権利能力のみでの提訴が可能であり、原告やクラスメンバーなどいかなるクラスアクションや集団訴訟などによる提訴もできないものとしています。

# Windows XPおよびVistaでのGoogle認証プロセス

Windows XPやWindows Vistaで実行する場合、GoogleドライブやYouTubeにアップロードする権限をExpress Scribeに付与するには、追加の手順が必要です。

1. テキストの文字、記号および行数を数えるには、**ログイン...** ボタンをGoogleの **認証** ダイアログでクリックします。
2. ウェブサイトが開くので必要に応じてGoogleアカウントにログインします。
3. 要求された機能にExpress Scribeがアクセスすることを承認します。
4. **認証コード** がGoogleから発行されるので、これをコピーしExpressScribeの **ログイン完了**ダイアログ（Express Scribeの）。
5. テキストの文字、記号および行数を数えるには、**準備完了** ボタンをクリックしてログイン作業を完了します。

# オプション - オプション ~ 再生

**再生**
音声デバイス
複数のサウンドカードがインストールされている場合は、このプルダウンメニューを使って再生用デバイスを選択します。
音量レベル
再生用のの音量設定です。Express Scribeのメイン画面で調整することもできます。
音量の自動調整（レンジ圧縮）
ダイナミックレンジ圧縮は、最大音量を上げずに、音量が小さい部分の音声を増幅します。 設定が弱いほど増幅の幅が小さく、強いほど増幅の幅が大きくなります。
デフォルトの再生速度
再生速度はスロー再生(F11/F2キーを使用)または高速再生(F3キーを使用)を選択することができます。速度は通常の速度を100%として表示しますので、50%は通常速度の半分を意味し、200%は通常の2倍を意味します。お勧めする設定は、スロー再生の場合50%（最小25%、最大100%）、高速再生の場合150%（最小100%、最大300%）です。

「現在のスピードで再生(F9)」の速度は、メイン画面の速度コントロールを使って調整します。
低周波数をカットオフし明瞭にする方法
Express
Scribeは、質の悪い音声を改善するために低周波数カットオフフィルタを使います。周波数のカットオフポイントを設定することで音質の調整を行います。
周波数フィルタを使わない場合は、「無し」を選択します。標準レベルの周波数フィルタにはハイまたはローのフィルタを使い、音質の悪い録音音声には1500hzの強めのフィルタを使います。デフォルトではフィルタ無し（0hz）が設定されています。
自動バック機能
「バックステップ」の設定を行っておくと、再生を一旦停止した後で再度再生を行う場合、停止した時点の少し前から再生を行うことができます。バックステップの時間はミリ秒で調節が可能です。例えば停止した箇所の1.5秒前から再生を開始したい場合は、バックステップの値を1500に設定します。バックステップ機能を使わない場合は、バックステップの値を0に設定します。バックステップに設定できる最大値は6000ミリ秒です。

**早戻しと早送り**
早戻しと早送りは、「速度を上げる」（デフォルト）または「一定の速度」の2通りから選択できます。Express
Scribeはまず事前設定されたミリ秒（デフォルトでは500ミリ秒、最大6000ミリ秒まで設定可）後退または前進した後、事前設定された速度（デフォルトでは800%、最大1000%）で早戻し/早送りを行います。「速度を上げる」を選択した場合、早送り/早戻しの速度は6秒から指定した最高速度（デフォルトでは800%、最大1000%）までアップします。

**ディクテーションの再生終了時**
- 選択した音声を再生：
  このオプションをクリックしてWAV

ファイルの位置を指定すると、ディクテーションが完了するたびに指定した音声を再生します。音声ファイルのサンプルがC:\Windows\[メディア]フォルダに保存されていますのでご参照ください。

# オプション - オプション ~
# システムワイドのホットキー

ホットキーの使い方および変更方法は、システムワイドのホットキーについてのページをご覧ください。
デフォルトのホットキーの一覧はショートカットとホットキーの一覧からご覧いただけます。

# オプション - オプション ~ 受信

**受信録音ファイル**

録音ファイルの受信元を指定することで、新しいディクテーションの確認・読み込みの自動化を行うことができます。「追加」ボタンをクリックして新しい受信ソースを設定します。詳しくはオプション ~ 受信 ~ 受信元のプロパティから録音ソースの設定についてご覧いただけます。

既存の受信ソースの詳細は「プロパティ」ボタンをクリックして「受信元のプロパティ」を開き、必要な設定項目の変更を行うことができます。詳しくはオプション ~ 受信 ~ 受信元のプロパティから録音ソースの設定についてご覧いただけます。

設定した受信方法を一覧から削除する場合は、削除する受信方法を選択し「削除」ボタンを押します。

**新規ディクテーションの受信時：**

- 特殊処理を行う：
  音声の特殊処理を行うことで、録音ファイルの音質を改善し音声を聞き取りやすくすることができます。「バックグラウンドのノイズ削減」、「音量アップ」および「ハイパスフィルタ」の3種類の特殊処理があります。
- 選択した音声を再生：
  このオプションにチェックマークを入れ、WAVファイルを指定すると、新規ファイルの受信時に指定したWAV音声が再生され新規ディクテーションの受信をお知らせします。音声ファイルのサンプルはC:\Windows\Media
  に保存されています。
- ツールチップを表示：
  新規ディクテーションの受信時にツールチップを使ってお知らせするよう設定することができます。

  **注意：**
  Linuxをお使いの場合、Libnotifyライブラリがインストールされている場合のみ、このオプションをお使いいただけます。
- 選択する（他のディクテーションが再生中でない限り）：
  ここにチェックを入れると、ディクテーションの読み込みが完了した時点で、受信したディクテーションが作業用に選択されます。
  新規ディクテーションの読み込みが完了した時点で、他のディクテーションが再生されている場合はこの限りではありません。

**暗号化キーを設定**

Express DictateやPocket Dictate、DialDictate、またWebDictateを使ってディクテーションの録音を行う場合、プライバシーの保護とセキュリティの強化のため送信前に録音ファイルを暗号化することができます。暗号化されたファイルを受信した場合、受信時に設定された暗号化キーをExpress Scribeに入力することでファイルの解読が行われます。

暗号化キーは、送信者のユーザーID（Express DictateまたはDialDictateの登録時にお渡ししています）に基づいています。登録がまだお済みでない場合は、IDを0としてください。

# オプション - オプション ~ 受信 ~ 受信元のプロパティ

このダイアログでは録音ファイルの受信の自動化を設定します。ダイアログはオプションの受信タブで「追加」（新しい受信設定用）または「プロパティ」（既存の受信設定の変更）ボタンをクリックすると開きます。

**受信方法タブ**

**受信方法**

- **Express Delegate**
  Express Delegate ディクテーション管理（v4.00以降）からディクテーションを読み込む場合はこのオプションを選択します。Express Delegateは当社のディクテーション管理ソフトです。

  Express Delegateオプション
  Express Delegeteサーバーは LAN（ローカルエリアネットワーク）またはインターネット上でアクセスできるコンピュータなどに設定します。Express Delegateの管理者がアカウントを作成したユーザーのみがサーバーにログインできます。Express Delegataのインストール方法や、サーバーの設定方法、ユーザーアカウントの作成方法などの詳細については、Express Delegateのマニュアルをご覧ください。

  Express Delegateに接続するにはExpress Delegateのサーバーおよびログイン情報が必要です：

  **サーバー**
  - アドレス：
    例： server.company.com
  - ポート：
    サーバーのポート番号です。
  - セキュリティで保護された接続（SSL/TLS）：
    送受信データを暗号化する場合は、ここにチェックを入れます。

  **ログイン**
  - 電子メールアドレス/パスワード：
    Express Delegateのユーザーアカウントへのログインに必要な電子メールアドレスとパスワードです。
    パスワードを紛失した場合のリセット方法については、Express Delegateのマニュアルをご覧ください。

  接続を試す：
  入力したサーバー情報とログイン情報を使ってサーバーへ接続できることをテストする場合は、このボタンをクリックします。接続に成功すると、サーバーの詳細が表示されます。

- **FTP：**

FTP（ファイル転送プロトコル）からディクテーションを読み込む場合は、このオプションを選択します。FTPを使う場合は、FTPサーバ上にご自身のディレクトリが必要です。インターネットプロバイダのWebホスティングサービスがFTPへのアクセスを提供していることが殆どですので、サーバ自体をご自身でホストする必要はありません。また、サーバは国内外のどこにあっても構いません。当社お勧めのFTPホスティングサービスの一覧は、

こちらをご覧ください。
警告！読み込み完了後、ディクテーションは自動的にFTPサーバーから削除されます。

FTP オプション:
Express Delegateに接続するにはExpress Delegateのサーバーおよびログイン情報が必要です：

**サーバ**

- アドレス：
  例：ftp.company.com（ポート番号を指定する場合はftp.company.com:12345の形式で入力）
- セキュリティ保護された接続（FTPES）
  送受信データを暗号化する場合は、ここにチェックを入れます。

**ログイン**

- タイプ：
  ユーザーアカウントを使ったログイン、または匿名でのログイン（Anonymous）のいずれかを選択します。
- ユーザー名/パスワード（Anonymousでログインしない場合）：
  FTPのアカウント名とパスワードです。

フォルダ：
例：/ユーザー名/ディクテーション
デフォルトのFTPサーバーフォルダのサブフォルダです。
接続を試す：
入力したサーバー情報とログイン情報を使ってサーバーへ接続できることをテストする場合は、このボタンをクリックします。

- **ローカルフォルダ：**

LAN（ローカルエリアネットワーク）上の共有ドライブやフォルダ、またはお使いのコンピュータ上のフォルダからディクテーションを読み込む場合は、このオプションを選択します。
警告！読み込み完了後、読み込み元のフォルダやドライブからディクテーションが自動的に削除されます。

ローカルフォルダオプション

- ソースフォルダまたはドライブ：
  例：H:\共有フォルダ\タイピング\フォルダ\\サーバー\フォルダ ファイルの送信元となるソースフォルダは、LAN（ローカルエリアネットワーク）上の共有ドライブやフォルダ、またはお使いのコンピュータ上のフォルダなどから選択することができます。ネットワーク上のドライブやフォルダを使う場合は、共有が許可されていることを事前にご確認ください。

  電子メールに添付されたディクテーションを読み込む場合は、電子メールプログラムが添付ファイルを保存を行うフォルダをソースファイルとして設定します。

**読み込みモードタブ**

読み込みモードのタブでは、新規ディクテーションの確認頻度や、複数のディクテーションを受信した場合に読み込みを行うファイル数の設定を行います。

- 手動 - 1つずつ：
  「同期」ボタンまたはファイルメニューの「同期」をクリックして受信ソースの確認を行います。複数のディクテーションが検出された場合は、優先順位が一番高いディクテーションのみ読み込まれます。
- 手動 - 全てのファイル：
  「同期」ボタンまたはファイルメニューの「同期」をクリックして受信ソースの確認を行います。複数のディクテーションが検出された場合は、全てのファイルが読み込まれます。
- 自動 - 全てのファイル：
  「チェック間隔（分）：」で指定した間隔で自動的に受信ソースの確認を行います。複数のディクテーションが検出された場合は、全てのファイルが読み込まれます。

チェック間隔（分）

ここで指定した間隔で受信ソースの確認を行います（手動での読み込みを選択している場合は無効になります）。

**「ファイルタイプ」タブ**

受信ソースから読み込みを行うファイルの拡張子にチェックを入れます。

**注意：**受信方法にExpress Delegateを選択している場合は、ファイル拡張子のチェックボックスが表示されません。

# オプション - オプション ~ ファイルタイプ

**RAW/VOXのデフォルト設定を調整...**
詳しくはコーデック設定をご覧ください。

# オプション - オプション ~ 音声認識

Express Scribeに音声認識を設定すると、音声ファイルの読み込み時に音声認識がバックグラウンドで処理を行い、メモ欄に録音音声の全文が表示されます。処理速度の速いコンピュータをお使いの場合でもこの作業にはかなりの時間（録音ファイルの再生時間より長い時間）がかかる場合がありますので、他の作業を行っている間に行うのが理想的ですが、バックグラウンドで行われる作業ですので作業の完了を待たずにテープ起こし作業を始めることも可能です。

音声認識機能による音声の書き取りは、100%正確というわけではありませんのでご注意ください。音声認識テクノロジーはまだ発展途上にあり、かなり良く使いこまれたエンジンの場合でも精度は約9割ほどです。音声認識を使って書き込まれた原稿は下書きとしてお使いください。再度実際の録音を聴きながら手直しを行うことで、テープ起こしにかかる時間を短縮することができるはずです。

より正確な音声認識を行うには「トレーニング」を行うことが大切です。話者の声や話し方を音声認識エンジンに覚えさせるというトレーニングは、Express Scribeではなく音声認識ソフト自体に行う必要がありますので、トレーニング方法についての詳細は音声認識エンジンのマニュアルをご覧ください。

Express Dictate（またはDialDictate）を使って録音を行った場合、Express Scribeは送信者のIDを使って各ディクテーションと話者を自動的に一致させます。IDはExpress DictateやDialDictateの登録時に入手いただけます（これらのソフトウェアの登録を行っていない場合は、WAVファイルや「ドック」機能を使って読み込んだファイルのIDを0とします）。音声認識のトレーニング終了後は、録音ファイルの受信時に話者を設定することができます。話者の設定はオプションの「音声合成」タブの「特定のユーザーのプロファイル」欄で行います。

**音声認識のセットアップ**

1. オプションダイアログを開き、音声認識タブを選択します。
2. 「音声認識を有効にする」にチェックを入れます。
3. 「エンジン」のプルダウンメニューから音声認識エンジンを選びます。一覧にエンジンが表示されない場合はインストールが完了していないか、インストールされたエンジンがSAPI対応ではないということになります。
4. 「デフォルトのプロファイル」のプルダウンメニューから話者のプロファイルを選択します。ここで指定したプロファイルが、「特定のユーザーのプロファイル」に設定されていないユーザーから受信したディクテーションに適用されます。
5. エンジンが音声を認識するよう、お使いの音声認識エンジンを使って各ユーザーにトレーニングを行ってもらいます。トレーニング方法の詳細は、音声認識エンジンのマニュアルをご覧ください。殆どの音声認識エンジンは、各ユーザーが自身のコンピュータを使ってトレーニングを行うことができますので、トレーニング終了後トレーニングファイルを転送して貰ってください。
6. トレーニング完了後、「特定のユーザープロファイル」の一覧に話者のプロファイルとユーザーIDを追加します。話者がExpress DictateまたはDialDictateをお使いの場合は、ソフトウェアの登録時に発行されたIDをお使いください。それ以外のソフトを使った録音や、一般的なWAVファイル、ドック機能を使って読み込んだ音声などのIDには0をお使いください。

メモ：オプションの「音声合成」タブを開いた際に「プロファイルを取得中」というダイアログが表示される場合があります。

設定完了後は、ディクテーションが読み込まれるとExpress Scribeがバックグラウンドで音声認識を実行します。認識作業が完了すると、認識された文章がメモ欄に表示されます。

認識作業は実際の音声ファイルの再生時間以上に長くかかる場合がありますのでご注意ください。別の作業を行っている間に音声認識を行うのが理想的ですが、作業はバックグラウンドで行われますので音声認識の完了を待たずにテープ起こし作業を始めることも可能です。

音声認識作業はディクテーションを読み込む際にのみ行われ、既にExpress Scribeに読み込まれているファイルに対しては音声認識が行われませんのでご注意ください。

# オプション - オプション ~ ディスク使用状況

**この日数が経過した古い「完了」ファイルを削除**
ハードドライブの容量が少ない場合などには、ここで指定した日数が経過した古い「完了」ファイルを自動的に削除するよう設定することができます。ファイルを削除しない場合は日数の設定を0にしてください。

**ハードドライブの空き容量がこれ以下になると警告を表示(MB)**
ファイルの読み込み時、またはExpress
Scribeの起動時にハードドライブの空き容量を確認し、ここで指定した容量を下回ると警告を発します。容量がここで指定した値を下回るとExpress
Scribeにファイルの読み込みができなくなります。

**データフォルダ**
Express
Scribeがデータファイルの保存を行うフォルダをここで指定します。複数または分割されたハードディスクをお使いで、容量が少ない方のディスクにデフォルトの保存先が設定されている場合などには保存先を変更することができますが、通常はデフォルト設定を変更する必要はありません。

警告！

- 着脱式ディスクにデータフォルダを設定しないでください。
- ネットワーク上にデータフォルダを設定しないでください。
- データフォルダに変更を加えると、現在設定されているデータフォルダ内のデータ（現在読み込まれているディクテーションなど）がExpress
  Scribeに表示されなくなります。

データフォルダをデフォルトの保存先に戻す場合は、「デフォルトに戻す」ボタンをクリックします。

# オプション - オプション ~ 表示

**時間モード** Express Scribeに表示する時間は、以下のいずれかから選択できます：

- **経過時間**
  録音ファイルの先頭から現在の再生位置までの時間を表示します。
- **残り時間**
  現在の再生位置から録音ファイルの末尾までの時間を表示します。
- **録音時間**
  現在の再生位置が実際に録音された時間を表示します。
  MSRS 法廷・会議用録音ソフトなどを使って複数チャンネルで行われた録音を取り扱う場合などにお使いいただくと便利です。

**時間形式** 時間の表示形式は以下のいずれかからお選びいただけます：

- **m:ss**
  分：秒
- **m:ss.t**
  分：秒.10分の1秒
- **h:mm:ss**
  時：分：秒
- **h:mm:ss.t**
  時：分：秒.10分の1秒
- **mmm:ss**
  分（前ゼロ埋め）：秒
- **mmm:ss.t**
  分（前ゼロ埋め）：秒.10分の1秒
- **hh:mm:ss**
  時（前ゼロ埋め）：分：秒
- **hh:mm:ss.t**
  時（前ゼロ埋め）：分：秒.10分の1秒

**接頭/接尾** メモ欄に現在の再生時間を挿入（「メモ」メニューから> 「挿入」 ->> 時間）、またはクリップボードにコピーする際（オプション ->
ホットキーの「時間をコピー」コマンドを使用）に、ここで接頭/接尾として設定した文字や記号が時間表記の前と後に表示されます）。

例：接頭を[、接尾を]と設定した場合、時間が[0:12:34.5]の形式で表示されます。

**追加カラム**
メイン画面のディクテーション一覧に、独自のタグの値を2つまで表示することができます。
タグを追加する場合はタグの名前とカラム（列）の名前を指定してください。

例：　<caseno>12345</caseno>というタグが含まれており、「XMLタグ」を"caseno"、カラム名を「ケース番号」で設定。
一覧に「ケース番号」という列が追加され、該当する行に「12345」の文字が表示されます。

# オプション - オプション ~ その他

**特定の文書ファイルを使う**
ワープロソフトを使って口述のタイプ入力を行っている場合、ExpressScribeは各音声ファイルごとに1つの文書ファイルを作成することができます。CtrlとUキーを押すか、メイン画面の小さいツールバーにあるワープロソフトのアイコンをクリックしてください。新しい文書ファイルが作成されると、ベースになる文書ファイル（例えば独自のテンプレートなどが設定されたファイル）がコピーされます。Express ScribeでCtrl+U オプションを使用する場合、Express Scribeにコピーする文章を作成し、ベースとなる文章ファイルを選択してください。

追加
ベースとなるテンプレートは複数追加することができますので、文章の作成時に使用するテンプレートを1つ選択してください。
削除
不要になったテンプレートは「削除」ボタンを使って一覧から削除することができます。
デフォルトに設定
自動的に選択されるファイルは変更することができます。CtrlとUキーのショートカットキーを押してファイルを選択し「デフォルトに設定」ボタンをクリックしてください。

**電子メールの詳細設定**
このボタンをクリックして電子メール送信に関する詳細設定のダイアログを開きます。

# オプション - オプション ~ コントロール

詳しくはコントローラ ~ 概要
をご覧ください。フットペダルやハンドヘルド式コントローラを使ったExpress Scribeの操作方法につきご覧いただけます。

**フットペダルコントローラを有効にする**
コントローラを使用する場合は、このボックスをチェックしてください。

**コントローラ設定ウィザード**
ウィザードを起動してコントローラの設定を行います。 詳しくは
フットペダルと携帯型コントローラのセットアップガイド をご覧ください。

**使用可能なコントローラ**
設定済みのコントローラがある場合、コントローラのタイプとステータスを表示します。

**プロパティ**
使用可能なコントローラの製造メーカー名や型名、インターフェースなどを表示します。
また、シリアルポートに接続するコントローラに使用するポートの選択など、各種オプションの設定もここで行うことができます。

**コマンドマップ/テスト**
使用可能なコントローラのボタンやペダルの一覧を表示します。

- 1番目のカラムにはボタンまたはペダルの名前が表示されます。
- 2番目のカラムにはボタンまたはペダルを押した際に実行されるExpress Scribeのコマンドが表示されます。
  *のマークがあるコマンドは「タップロック」オプションを使うことができます。
- 3番目のカラムではコントローラが正しく設定されていることを確認するテストを行います。各ボタンやペダルを押してテストを行ってください。

「コマンドを変更する」をクリックすると、ボタンやペダルを押した際に実行されるコマンドを変更するためのダイアログが表示されます。
各ボタンやペダルに割り当てたコマンドをデフォルトに戻す場合は、「コマンドをデフォルトに戻す」をクリックします。

**タップロック**
コマンドマップ/テストで*印が付いているコマンドはコマンドを押す長さに応じた実行が可能です。 指定されたボタンやペダルが押されるとコマンドが実行されます。
コマンドの実行を終了するタイミングはタップロックのオプションで変更します。

- タップロック機能がオフになっている場合は、ボタンやペダルを離すとコマンドの実行が終了します。
- タップロックがオンになっている場合は：
  - 長押しでタップロックを解除がオフの場合：ボタンやペダルを離した後もコマンドの実行が継続し、再度ボタンやペダルを押すと実行が終了します。
  - 長押しでタップロックを解除がオンの場合：ボタンやペダルを素早く押すと、次にボタンやペダルが押されるまで実行が継続します。
    ボタンをペダルを指定した時間より長い時間長押しした場合は、タップロック機能が解除され、ボタンやペダルが押されている間は実行が継続し、ボタンやペダルを離すと実行が終了します。

# コントローラ - コントローラ ~ 概要

**フットペダルについて**

Express Scribeの機能の多くはフットペダルを使って操作することができます。

フットペダルは、キーボードやマウスから手を離さずにソフトウェアが使えるようになるため、ショートカットキーやホットキーよりも更に効率的な作業が可能になります。
詳しくはコントローラ ~ 互換性のあるコントローラのページをご覧ください。Express Scribeと互換性のあるコントローラの一覧をご覧いただけます。
コントローラのペダルやボタンはExpress Scribeがバックグラウンドで実行されている場合でもお使いいただけます。
また、Express Scribeを最小化した場合や、他のプログラムを使用している際でもコントローラのペダルやボタンは機能します。

**使用可能なコントローラ**

「使用可能なコントローラ」とは既にこのソフトウェアに設定が行われているコントローラのことです。
詳しくは フットペダルと携帯型コントローラのセットアップガイド および オプション ～コントロール をご覧ください。
設定済みのコントローラを取り外してポートの移動を行った場合は、使用可能なコントローラとして認識されなくなりますのでご注意ください。
認識されなくなった場合は、コントローラを元のポートに再接続するか、コントローラ設定ウィザード してください。

**コントローラの状況**

使用可能なコントローラの状況を示すアイコンが、ステータスバーの右側（画面右下）に表示されます。
アイコンは状況に合わせて以下の4つの配色で表示されます：

- 黒いアイコン、緑の点：コントローラが接続されており正しく設定が行われています。
- 黒いアイコン、オレンジ色の点：コントローラは正しく設定されていますが接続されていません。
- 黒いアイコン、赤い点：コントローラが正しく設定されていないか、エラーが発生しています。
- 灰色のアイコン、点なし：コントローラの機能が無効になっています

マウスカーソルをアイコンの上に乗せると、コントローラの状況が文字で表示されます。
コントローラの機能が有効になっているにもかかわらず、有効なコントローラが設定されていない場合、プラグアンドプレイ式コントローラを接続した際にメッセージが表示されることがあります。 メッセージをクリックすると コントローラ設定ウィザードが実行されるので、接続したコントローラを使用可能なコントローラとして設定してください。

# コントローラ - コントローラ ~
# 互換性のあるコントローラ

詳しくはコントローラ ~ 概要 をご覧ください。フットペダルを使ってExpress Scribeを操作する方法につきご覧いただけます。

**お勧めのコントローラ**

以下のコントローラはExpress Scribeと互換性があり、Express Scribeの有料サポートをご購入いただいたお客様にはコントローラの設定に関するアシストも行っております。 弊社のウェブサイトから

ご購入方法をご確認ください。

| コントローラ | 画像 | 詳細 | 対応OS |
|---|---|---|---|
| AltoEdge製USBフットペダル | | USBフットペダル（3ペダル） | Microsoft Windows、Mac OS X |
| テープ起こし用ワイヤレスフットペダル | | ワイヤレスフットペダル（3ペダル） | Microsoft Windows、Mac OS X |

VEC Infinity
IN-USB-1 / IN-USB-2

USBフットペダル（3 ペダル）

Microsoft
Windows、Mac OS X

vPedal vP-1 (USB)

USBフットペダル（3 ペダル）

Microsoft
Windows、Mac OS X

| | | | |
|---|---|---|---|
| vPedal vP-4 MKII<br>ワイヤレスフットペダル | | Bluetoothワイヤレスフットペダル（3ペダル） | Microsoft Windows、Mac OS X |

**旧式のコントローラ**

以下のコントローラはExpress Scribeと互換性があり、Express Scribeの有料サポートをご購入いただいたお客様にはコントローラの設定に関するアシストも行っております。
コントローラのご購入をご検討されている場合は、上記の「おすすめコントローラ」一覧からお選びいただくことをお勧めします。

| コントローラ | 詳細 | 対応OS |
|---|---|---|
| VEC Infinity IN-DB9 | 9ピン、シリアルポートフットペダル（3ペダル） | Microsoft Windows、Mac OS X |
| vPedal vP-1 (Serial) | 9ピン、シリアルポートフットペダル（3ペダル） | Microsoft Windows、Mac OS X |

**その他のコントローラ**

以下のコントローラはExpress Scribeと互換性がありますが、お使いいただけない機能がある場合があります。
NCHソフトウェアはこれらのコントローラに対するテクニカルサポートは提供しておりません。

| コントローラ | 詳細 | 対応OS |
|---|---|---|
| Olympus Foot Switch RS-27 (USB) | USBフットペダル（3ペダル） | Microsoft Windows、Mac OS X |
| Philips Foot Control 2320 | USBフットペダル（3ペダル） | Microsoft Windows、Mac OS X |
| 汎用ゲームコントローラ | Windowsにインストールおよび設定（コントロールパネル->ゲームコントローラ）済みの1～2個のボタンがある>ゲームコントローラ | Microsoft Windows |

| | | |
|---|---|---|
| 一般的なシリアルポートデバイス | シリアルポートに接続されており、上記の「おすすめコントローラ」や「旧式コントローラ」に無いコントローラは一般的なシリアルポートコントローラとして設定することができます。 | Microsoft Windows |

**ドライバのカスタム化**

Express ScribeをMicrosoft Windowsで実行している場合は、お使いのコントローラが上記の一覧に無い場合でもドライバをカスタム化することでお使いいただける場合があります。
NCHソフトウェアは、ドライバのカスタム化に対するテクニカルサポートは提供しておりません。

ドライバのカスタム化を行うには以下が必要になります：

- コンピュータプログラミングの経験
- コントローラとのインターフェース接続用API（コントローラの製造メーカーから入手）

**コネクタ**

コントローラには、以下のコネクタをお使いいただけます：

| ポート | プラグ | 対応OS | メモ |
|---|---|---|---|
| USB | 通常 USB-A | Microsoft Windows、Mac OS X | |
| シリアル | 9 ピン DE-9 または25 ピン DB-25 | Microsoft Windows | |
| ゲーム | 15 ピン DA-15 | Microsoft Windows | Windows Vista以降のMicrosoft製品はゲームポートに対応していません。 |